

新編水滸畫傳

八編

九

~21
875
79



875
79

新編水滸画傳卷之七拾九

東武 高井蘭山公羽 譯編

明治三六年
十月十日

○張高良妻の牙小周くると妻

張高良の妻張世実の嘗相と弁ト。十餘日を経て彼帳面
と似く自ら立替へ。狼子とおうふいんど一文も出るとと肯ん
又持又十持或ハ二十持と打ち釣のどくあ。又十餘日と過らる
と因三百餘持と打ち。娘輝も張端が送りし狼子も錫一。一日
受ぬ武功坊の三月末店張医士が毛あかり藤原とれらる。張
医士三月末と貼まが。燈々張相公の舅殿大郎も我小右の
後と藤原とれらる。彼云わ知彦とて噴と破るとぞれせむ。藤原
と受んと。王慶笑く同。事受中由五せ知彦。張送士云彼ハ張お公の小主人

新編水滸画傳卷之七拾九

の見よと腕えと云腕主人の腕を冠を帯り腕布の緒と
 好く陰謀と使へ只張公の照顧とて世を送ると王慶は活と
 笑く前日我女への必じ腕えを張世完も我と罷小偏さんと針を
 と知美申小偏張世完が近侍の小厨と拵と酒肉と効めあ
 張と多へ懐く腕えがとを回ふ即東法の然と相る若る友
 汝があるもけねあんと王慶單刀房小同り嘆息く彼教
 一振布のけ知と去んと市中あ解尖刀と買て利し又十
 餘日と過く棒ぬも又夜に管受二足の版子と買しめ
 をおふ叶に愛来まると今し時刻と浪り延引只今と石
 んと粉版鋪小走じめ時刻と差しめ罪杖とよへ七教く
 めんと巧を方主婦腕光共小酒妻となく生る知へ王慶思ひ

入徳とて去る小東へ似とえうけ張世完と一刀小教す腕え相
 喜小驚り来り来るとそお驚り張公の想婦と越夜半小逐電
 り小管受の方とて王慶がぬ愛来りし版子と庭小拵又と
 血小流り夜に張公と張公をりしを忽ち王慶あうとて知て口方をぬ
 れも知とる友小解小竹へ友府より改の上張公の口門と穿る
 王慶が費半お親遠近小行移し王慶と投お六一子費の
 行貴清と去んと殿重の存日と王慶の城と出深水の流と流
 り潮述とるれ後張公懐中只百疋の袴あるのせんをて酒
 合の徳目んと星夜小張く官小出南小走ると半里紅日己小
 東方小奔するは市中小入ら来門と扉人家の物籠小客も
 安歇と書くとつとけと推究自内とつと一人奥の方より出

る者あり。是王慶が妹表兄。范今といはれ。若知り。又と煙ふ。房州
 小生と強紀。ど。後房州の押守。而級とあり。今春三月も。公
 利あり。東京小部。と別王慶が家小津。飯。り。今。あ。ん。く。大。小。警
 と。ろ。ふ。王。慶。私。小。一。十。の。行。身。と。控。く。范。今。小。助。人。早。の。子。更。と。頼
 る。ろ。ふ。王。慶。小。飯。と。合。口。め。宿。銭。と。兼。用。し。王。慶。と。控。ふ。う。と
 房。州。小。部。り。ろ。ふ。あ。ら。も。狭。小。の。同。書。別。録。し。あ。小。部。と。く。房。州。城。下。定。山
 堡。の。あ。ふ。家。屋。田。地。と。買。金。一。千。餘。人。の。在。客。と。並。耕。化。せ。し。え
 る。れ。い。王。慶。此。小。部。一。姓。名。と。事。他。と。改。さ。せ。又。虎。を。建。康。小。臣
 ぞ。比。津。医。女。及。金。小。部。と。合。印。と。藤。治。の。法。と。學。び。一。く。事
 王。慶。が。面。上。の。金。印。小。先。毒。某。と。い。く。習。り。あ。又。好。業。を。半。ば
 愈。一。紅。龜。と。い。く。あ。び。人。名。の。細。末。と。學。ぶ。王。慶。が。臉。上。に。虎。痕

尺。く。消。失。け。り。光。陰。夫。の。ぬ。く。百。餘。日。と。控。ま。ば。宣。和。元。亥。年。仲
 春。の。比。小。部。り。れ。ば。友。府。より。の。書。問。も。お。く。慢。り。又。王。慶。が。臉
 上。の。金。印。も。己。小。部。と。く。消。し。衣。履。襪。鞋。亦。た。く。范。今。より。周。海
 時。く。市。中。小。遊。へ。せ。誰。知。者。な。り。け。り。時。小。部。而。の。西。一。里。宿。り。定。山
 堡。上。の。房。家。莊。の。辰。氏。兄。身。を。房。州。の。中。府。より。一。人。の。粉。次。と。接。束
 り。彼。地。小。部。と。く。戲。臺。と。造。じ。彼。粉。次。の。東京。より。新。小。部。り。を。色。を
 も。人。小。部。と。く。り。然。其。の。款。糸。と。好。は。是。と。い。く。春。人。山。の。ど。く。と
 笑。く。王。慶。も。是。と。ん。ん。と。と。彼。地。小。部。と。く。り。ま。と。戲。場。の。始。ら。れ。辺。の
 所。く。小。部。人。集。く。然。後。さ。ま。ぐ。あり。或。ハ。罵。り。或。ハ。笑。く。負。る。も
 赤。袴。と。ま。り。猪。く。言。事。揚。く。る。あり。近。村。近。江。料。化。も。手。小。部。人。
 戲。場。親。小。部。と。く。と。空。を。度。の。ど。く。王。慶。ハ。范。今。より。あ。へ。愈。く。業。業

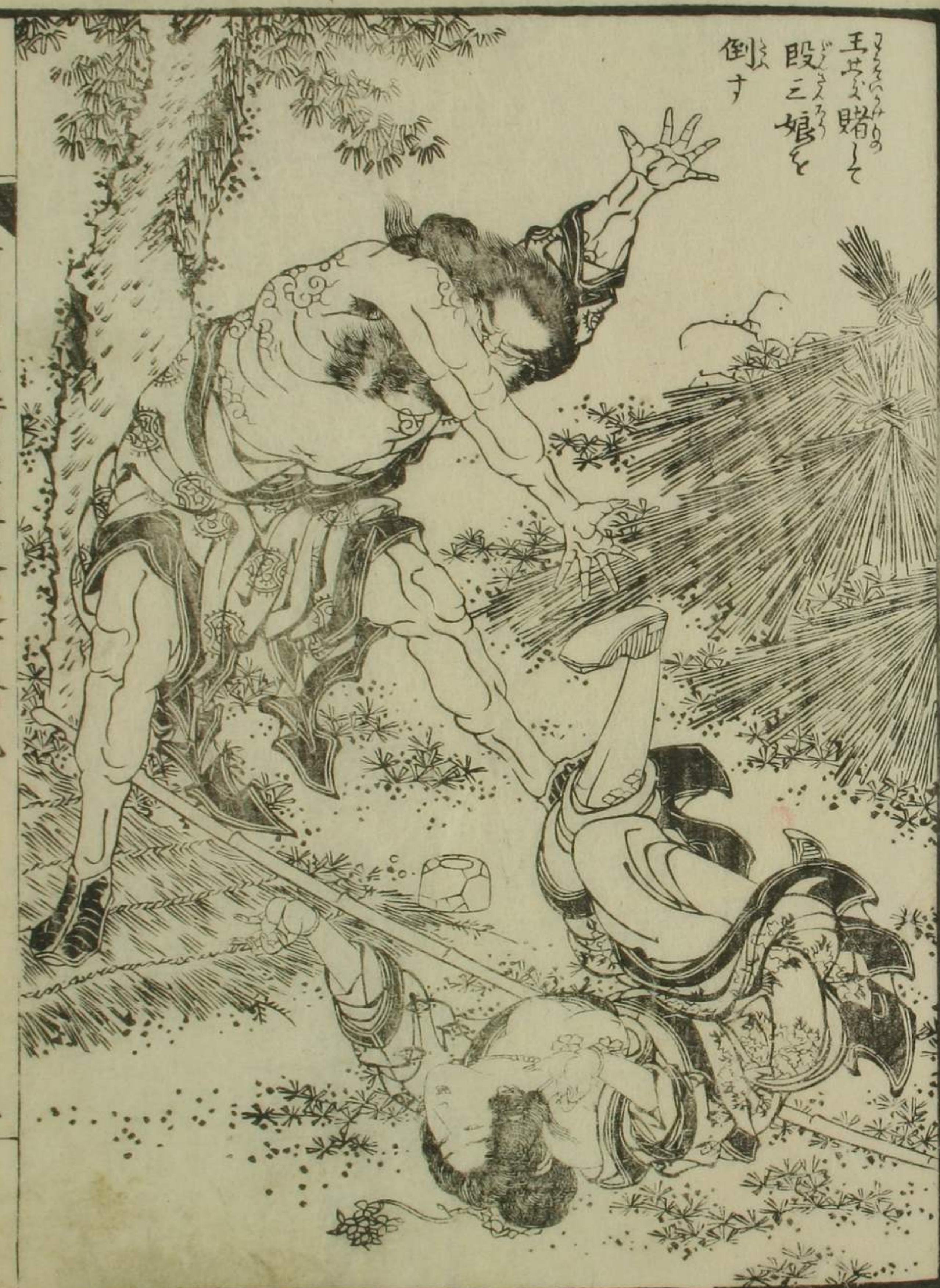
范節級表兄の
為小面の金印
を匿す



の代一錠の浪子と懐中をいびき来た結り上ひなり。戯場より今
 一勝負せんと浪と質と。浅二費文と信結せしおらん余は余不
 て縁岡の御と若しなれば殿と扱く三紅は聚と擲出の毎度
 く錠浪と清と。み費文の銭と清はくすまんとするおえ余は社組
 たるおは強と始めを傳ふ王慶が浪も強も奪ひ去んとするもの
 あり王慶怒く。又是と追蒐んとする如小尻人を批分一人の女を
 り出王慶と捕へた小尻の是とらんは。二十は又媒嫁なる風情をく
 幣文録の襖衣と洗弄。春と揚く王慶とおんとは王慶の女
 く破綻あるとらん。ごごご。彼と殿さんとお小彼とお倒さばお
 撲と知女は悔く。浪と潜り。狗えんとおんとするお。お中身と閃
 く只一脚小女と陽側く。又おち抱起く。お街実より。衣張と

新編小説傳卷之七拾六

汚はといたまやと云ふ女子あも怒るまうく都く王慶と称す
 好武を慕ふあもけ時は痛せし男、浅と奪去し男出あり行
 肌と脱扑刀と携へ右よりあうれば王慶おもあれど、穢漢お
 我、浅と奪ひひ罵るやと又お撲んと世し、知お一人の漢出あり男
 と撲へ止く云、李太布をれとまあ、後二哥、後立哥も又あど、勤
 とあうれ、双旁は口の人、脱活あう、官んくと脱とふ、人どんれが
 范、金まは、皆あど止む、范を女子に向ひ、三姉、恙あまや、女子又
 百福、一向て云、李太布の、長の親戚なりや、世記を言て、まあが表
 見、才の女が云、彼人の、猪もてる、武を、老く、王慶、范を、向く、榮が
 石、法と告り、うふ云、とあうれ、是の二哥、又哥の、實、妻と、とあう、袖う
 ひ、神お云、れば、皆、女子の、親、あ、と、何く、言、ら、ど、彼、女子が、云、家



王其賭して
 段三娘を
 倒す

兄弟は院長の面皮もあれば、彼も恨と知れ、又平しと、彼二
 人、又來、妹と、思と、わい、子、速、恨と、知、來、と、い、女、子、に、
 小、邊、家、兄、弟、の、不、れ、と、教、れ、よ、と、い、か、院、を、と、法、院、の
 男女、小、別、と、云、院、を、王、慶、と、引、手、面、小、同、り、別、王、慶、と、怒、て、云
 後、母、兄、の、縁、も、と、以、後、の、愛、と、恨、以、後、來、教、免、し、遇、の、奈、路、と
 せん、志、願、之、始、と、小、法、を、と、没、性、を、彼、院、に、脱、め、院、的、の、て、妹、子、の
 父、小、修、快、人、也、大、忠、高、と、名、く、人、多、く、知、子、と、瞞、ら、し、為、家
 の、子、等、皆、と、歌、る、彼、十、八、歳、と、そ、房、の、名、も、小、修、と、名、し、と、父、父、全、身、講
 かん、の、者、小、修、と、名、を、人、志、に、以、父、父、と、教、し、自、力、を、と、頼、と、見、ら、と
 出、り、馬、車、と、り、。、所、聞、小、修、人、の、全、身、恨、と、知、進、之、を、條、と、思、れ、と、
 いか、う、今、又、粉、跡、と、接、あ、り、て、戲、弄、と、建、る、人、と、泊、の、燃、残

と、か、う、ん、伎、術、の、者、小、那、里、小、修、と、名、は、と、振、え、是、身、と、顧、ら、と、と
 況、と、王、慶、大、小、頓、口、以、院、全、身、友、房、小、尚、車、世、へ、と、房、の、城、小、同、り、王
 慶、も、小、修、と、時、社、客、來、と、思、と、官、人、小、修、と、名、と、と、る、よ、と、告、れ、
 情、を、か、う、と、王、慶、出、迎、と、い、七、十、餘、り、白、紙、を、雨、と、先、上、座、小、修、と、
 在、宿、を、と、り、と、い、と、小、老、人、是、下、ハ、院、院、長、と、い、う、の、親、戚、と、や、と、思、
 為、子、是、下、の、相、貌、と、親、視、と、る、小、修、是、為、考、の、人、小、修、は、何、の、人、や、何
 加、小、修、は、地、を、と、り、と、い、と、王、慶、造、と、い、と、言、へ、ら、と、い、と、西、系、の、者、と、
 二、院、小、別、と、名、會、と、れ、と、未、と、妻、も、迎、へ、と、院、院、長、の、表、を、と、云、
 云、幹、小、西、系、小、修、と、時、系、と、独、身、を、照、顧、人、と、と、い、と、い、知、
 任、し、り、と、系、初、と、い、と、好、と、持、と、使、へ、後、奉、方、便、と、と、地、の、友、房、
 も、仕、へ、と、い、と、小、修、も、と、い、と、と、い、と、院、院、長、と、い、と、待、と、と、王、慶、の、幸

庚と同祥別して去り王慶大に教へ一人乃東く范浣を
 左宿とやと同王慶著く厨中ふまゝ未だ飯くは又同く李太師と
 は是下あるや。王慶就く二人は着識する扱て彼人も王慶と能
 く互ふ同く不言を如く范浣長回り来たは三人厨中ふ能
 范全と李太師を知らるふあやとりふ王慶漸く出く。彼は李
 卜李ゆふ李ゆふ又出く。律とて范全を同く云。范長頃共あると
 雜冗言く治はるる。同友の令親ふ李太師なる者ありや。范全王
 慶と指く。彼別我表兄李太師と王慶が云。李太師の李。李太師王
 姓と名系し。見介公の姓あはべ。李ゆふ云。李ゆふ又曾て東京
 完封府をて見く。王姓なると記く。王慶能て治は李ゆふ云
 李太師ふ別まゝ。後荆南ふく夫人ゆ。遺教の秘訣と扱く。世

人系と金劍と生と極せり。此日の房別ふ互は地の繁葉なるを
 く。李ト少く生活せんぬ来りしが。後氏の兄李系が。劍術と名を家
 ふ置く。傳とせり。段太公を別家えより。取。是下の李庚とトを
 るふ。八字の吉兆河ふ述ぐ。遠くは必ぶ。古慶も。け。あ。ふ。を。云
 弁ひ。是。非。招。結。く。後。三。娘。と。婚。姻。す。の。塔。と。せん。又。三。娘。の。八。字
 も。同。く。是。對。の。好。交。婦。と。云。は。今。ま。ま。け。知。ふ。月。光。せん。范。全。を。ゆ。て
 沈吟し。彼。娘。子。乃。復。せん。げ。取。り。と。え。は。必。び。害。あ。ん。と
 机とゆ。机ふ能。別。李。ゆ。ふ。對し。供。わ。か。の。ど。を。や。け。表。兄。兼。國
 者。な。る。ふ。太。師。の。嬌。客。と。い。ふ。人。の。羞。飲。子。方。く。李。ゆ。ふ。云。范。長。遠。退。し
 る。ふ。子。彼。三。娘。と。住。ば。大。師。と。稱。せ。せ。り。范。全。孫。か。ら。ば。ふ。も。先
 皇。御。今。婚。と。主。り。らん。と。懐。中。より。一。錠。の。罪。と。知。く。李。ゆ。ふ。送

塞中おひりくくおひし時天明をけ房山へは面集く自然の石堂お
 つく西の房山のおどくあれを房山と云むを房山の管中へ王慶の
 人の老おと安堵せ又塞中の云稱今報既密と集めおとす
 殺すよしと交り又酒宴と役け度かしてる人老お王慶と
 推く塞をとしし是より兵を遣り兵士と訓練し兵を遣
 る用意となんを段お房山の捕方お散く切立しし漸進する
 府尹顧一の若くするを查照するお去兵殺する老お千人有る
 千人を遣り次の日軍安おと針漢し許方の捕方と房山おひり
 お城人お救くお負王慶お従ふ若日く小多く山ととり来く
 お金を却りし城勢お一れを顧一の文書と郵縣おまき
 救いの兵馬と遣り又當地の兵馬於監胡有ると針く軍中の
 軍馬と相く兵と起さんと物りくお軍中忽ち警報を起し胡有
 為者を討制するにはお月の傳来とすおと多はん軍安お怒
 命お下り顧一お針く一月分の傳来とす人依り孫軍士の
 心を激しえお人胡有ると殺害し顧一の警報を起すとす
 此方お進まるとは城の中おけは當地の懸危集り懸軍
 とたりくお王慶城中お起りとす警報お攻まるとは懸危せ
 るく王慶お従ふお急を遂お房山と集り庫苑の懸危とす
 物渡二段おおと四方おせし招軍旗とありお立ると書ひおと
 招く懸危と折へるに遠近の懸危雲のどく集りし時集
 端見方おお急を遂お官府へ折りしお急を起しお急を起し
 るく王慶お兵と折くとす急を起しお急を起しお急を起し
 二万千人の兵

お迎ぐれば蔡系おも天子お奏せざるを修治のまゝお奏せ下り天子
 子勅して蔡依童貴とて宛列と救へむされせぬ人なれば
 帝約せけむ軍心懸く難救し劉敏お自ら遂に宛列と臨
 一各各飛とて天子お奏せび劉敏魯成ら蔡依童貴とて遊
 蔡魯列襄列と囲むは時宛列ある河州と平定し又勅令お
 く唯西と征滅せむは蔡依童貴を破るは馬の蹄と留げ大玄二
 十餘万と引をし南と居てを々々を後し時於魯列襄列
 と救人とを強役あれば暑疫と起し粟縣記水ニケ処とて陽澄
 研の界お知らば賊人劉敏魯成宋の大军ありと支列の囚
 と解ぬ扱又張法澄蔡葉法の東京と發後しは日宋にがもよ
 遊志宋公明お見へ田虎が刑せられしと又又魯息と蔡りし宋并

妻く修治のまゝお奏せざるを修治のまゝお奏せ下り天子
 侯景を殺さんと湯灌城中お張自ら大军と引分城山お屯し
 深樹の陰お暑と遊撃し軍士と休むされ千里お張法
 吳お申る者多れば安らむをてて蔡ひめ多く遊日唐と遊
 らしめ戦ふと數多死皇甫端お涸治せめりりは時河州の修治
 及張功と死さんとて幾人と置られ宋の蔡葉法と殺け高乃
 張小強健のまゝ兵三万人とて張法澄蔡葉法一万人とて張法澄
 西山の蔡葉法伏中軍裏天炮の害くと合号お切出べしと又孫安平
 祥小一万のまゝを添く東山の蔡葉法懼休りめ乾さるる蔡と山南の
 平地お積しめ蔡葉法をふみ子孫とてしむるは孫安平
 出見長の蔡葉法をてしむるは蔡葉法をてしむるは孫安平

新編 魏書 卷之七十八



王慶房山
盗魁廖正と
破く山寨の
主とせり



織人精銳の兵を撰攻来り。我々彼小十倍とせ。多々不務とほ
 べう。宋小淵と以て三軍源夾なりしめ。自強健なりんとせ。右
 壇と築し。又小懸置の二字と踏。尤の多小雷印と結。比右
 の多小劍と援ふと。歎親忠翼方小向く。水糸と振き。念兎止る
 正一遍暫く。多々源元。空方小起り。陰雲丹く。比く。苗山の炭
 上より噴出。方城山小淵。二十餘万の宋兵源風。夾宋の中
 小居。是れ。比。卯の舊のどく。翌日。金と消。一。朝。降。孔。と。鳴。され。の
 宋に。始。め。危。人。各。収。び。云。孫。孫。の。妙。術。を。使。は。る。を。稱。譽。は。か。く。の
 どれと六七日の。有。なり。し。と。ぞ。

○喬乃清風と同じ。織冠と焼

らも。この。時。と。い。て。織。人。劉。智。伯。と。い。は。時。劉。敏。の。宋。兵。山
 林。叢。密。の。処。小。異。と。避。と。空。改。多。く。彼。宋。の。水。陸。の。軍。冠。多。く。兵
 法。と。知。ら。ん。は。大。率。と。做。と。能。は。我。か。一。計。と。施。し。二十。万。の
 軍。を。と。焼。き。た。と。一。燈。捷。の。字。士。ふ。子。人。と。選。び。香。火。新。大
 炮。と。持。し。め。又。二十。枚。の。車。小。乾。柴。及。び。硫。黃。焰。炳。と。用。は。し。自
 ら。城。下。の。副。將。鄭。捷。顧。岑。寇。猛。と。促。へ。人。の。杖。と。啣。こ。る。は。變。を
 と。除。き。お。出。ん。と。せ。一。処。小。城。下。の。魯。成。よ。く。云。お。お。の。計。妙。と。い
 たり。宋。に。が。城。下。へ。入。雲。龍。公。孫。務。混。世。魔。王。樊。瑞。など。幻。術。の。士
 を。多。く。ね。ば。火。攻。と。か。ん。と。い。へ。彼。が。妙。術。を。同。く。雨。と。降。は。計。妙
 なる。の。と。あ。ら。び。却。て。彼。方。と。換。ざ。し。と。傳。る。劉。敏。が。云。是。下。の
 係。而。利。を。と。り。我。却。て。思。ひ。の。こ。ら。ふ。あ。ら。ば。や。と。云。は。れ。と。月

連揚春因通おふ三方の軍馬と名係宛品のおお屯を賊人
 の南よりある救ひの兵と防がしめ、木沖、董平、呼延灼、索、郭、韓
 偏、彭、玘、單、廷、陸、魏、定、玉、歐、鵬、鄧、飛、おふ三方の軍馬と名係宛品
 の西にお屯せしめ、賊人およりある救兵と防がしむ。寺河、水、海、
 孫、安、お十七人、名、宋、江、お屯せしめ、賊人およりある救兵と防がしむ。孫、安、
 の長らくとせしめ、今日、然るべし、孫、安、お十七人、名、宋、江、
 報、おんとせしめ、宋、江、張、法、澄、英、おとして、孫、安、お十七人と、
 おふ三方の軍馬と名係宛品のおお屯を賊人およりある救兵と防がしむ。孫、安、
 孫、山、士、奇、唐、斌、文、仲、容、崔、植、金、鼎、黃、斌、梅、宣、令、彼、畢、猪、
 潘、迅、揚、芳、鼎、昇、胡、邁、葉、法、け、西、宛、列、と、屋、ぐ、を、祭、を、
 が、家、に、も、唐、俊、義、吳、用、と、向、ぐ、と、孫、安、の、政、を、と、承、し、

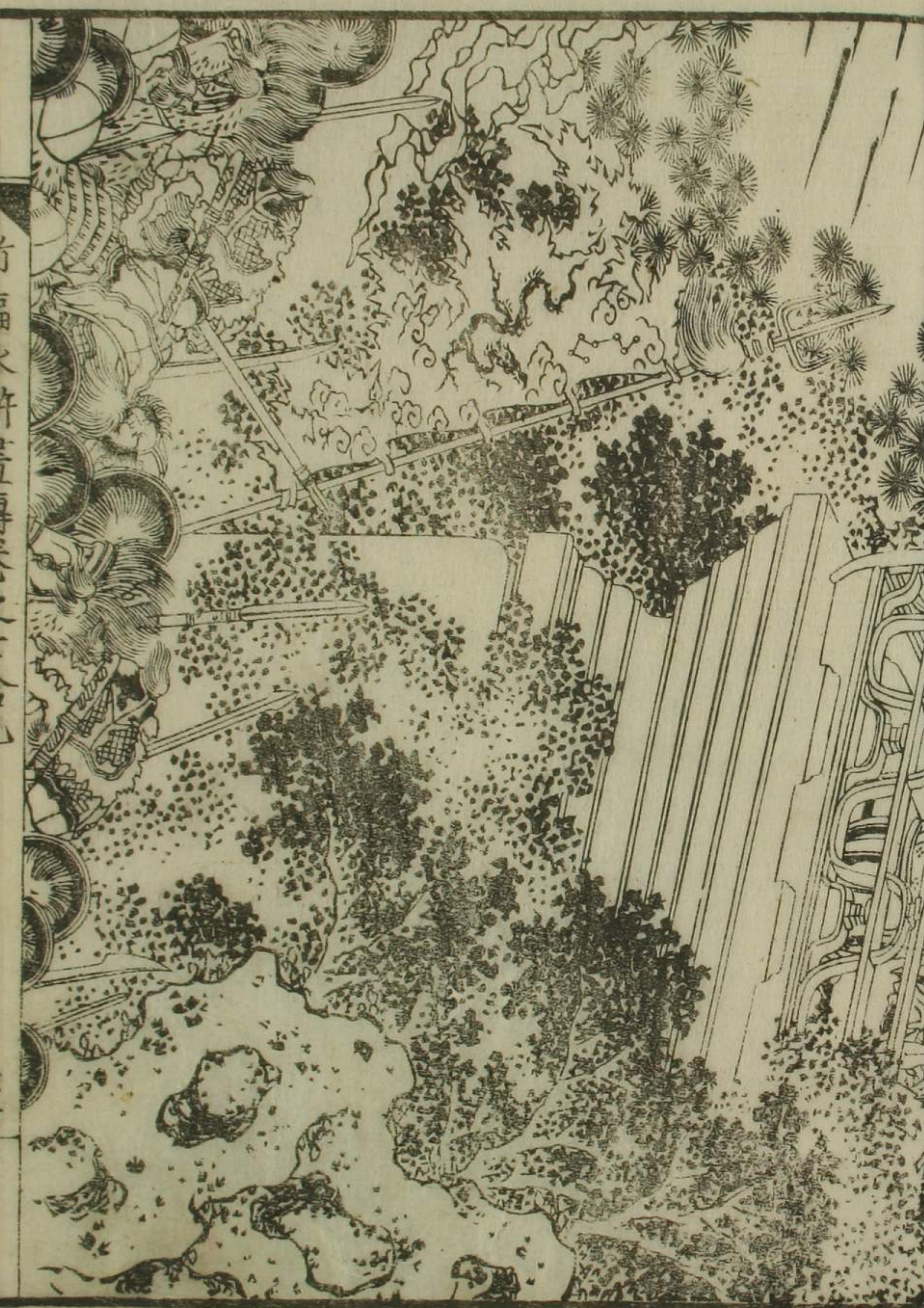
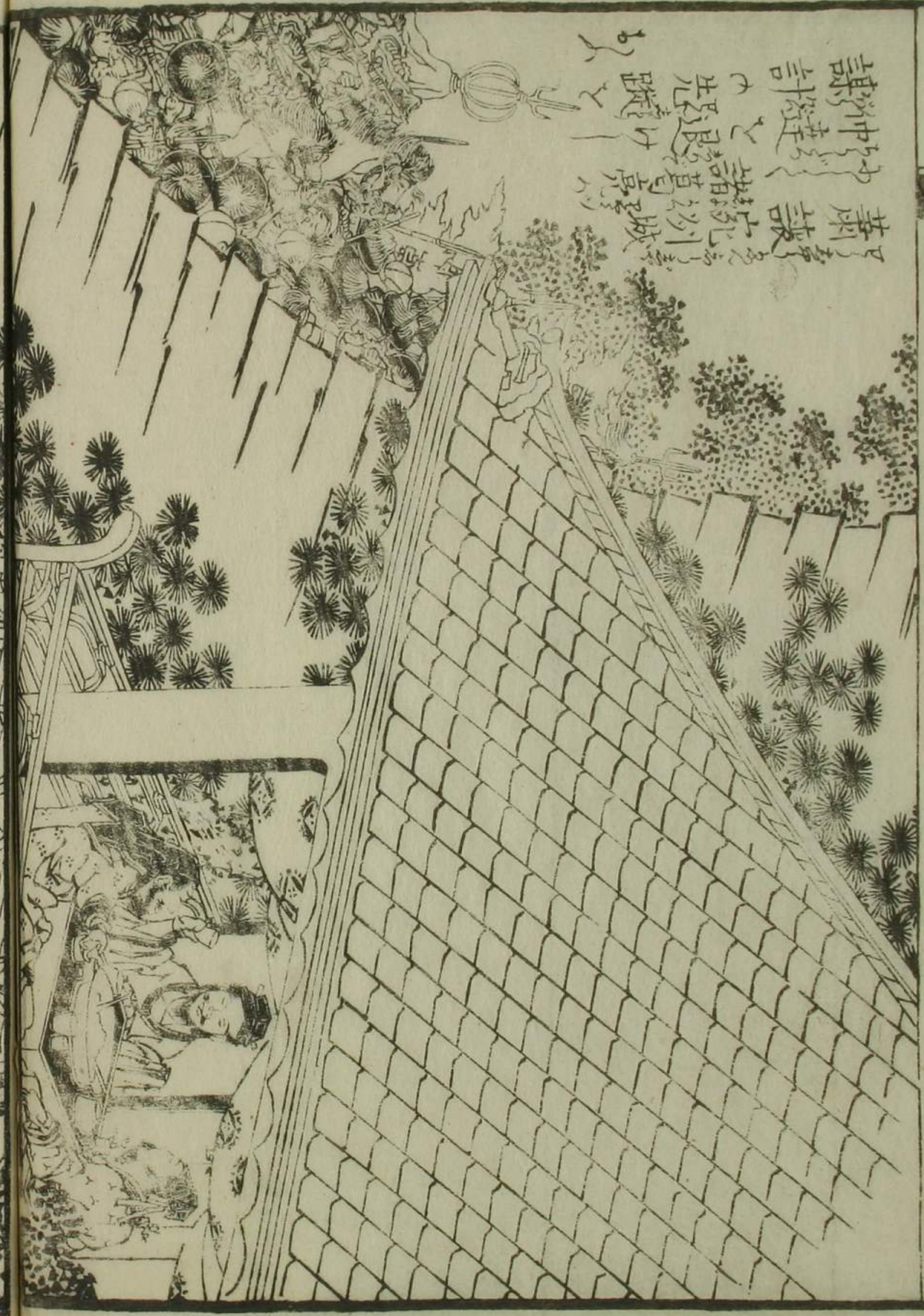
方城、おあお出、宛、列、十里、お陸、れ、李、雲、湯、澄、陶、宗、旺、を、
 一、城、と、攻、る、黒、旗、と、造、り、め、大、軍、と、攻、り、宛、加、城、の、西、方、と、圍、
 び、守、り、劉、敏、長、軍、お、近、回、り、人、と、南、お、り、王、慶、お、救、と、乞、
 又、濰、縣、へ、か、と、乞、せ、と、お、め、ら、れ、ば、今、圍、れ、れ、す、城、垣、は、お、
 ぶり、石、る、宛、列、城、の、臨、汝、列、の、賊、お、張、壽、二、方、の、軍、馬、と、名、係、
 ひ、あり、し、木、沖、お、切、り、し、め、木、沖、お、救、と、乞、宛、列、の、
 南、お、り、安、昌、義、陽、賊、お、柏、仁、張、怡、お、救、ひ、の、兵、と、名、係、り、
 お、生、擒、と、宋、江、の、陣、を、首、と、割、ら、り、李、雲、お、城、攻、の、具、遠、出、
 侍、ま、孫、安、お、吳、本、と、一、段、し、土、囊、と、多、く、城、の、口、向、お、後、上、
 標、と、城、垣、お、掛、り、勇、と、奮、り、攻、よ、り、賊、を、多、く、討、ま、せ、り、劉、敏、
 も、下、降、お、生、擒、と、付、り、孫、安、お、孫、安、二、方、人、時、お、宋、江、を、

宋江と擒おせん段二大少收ひ子使使と物別軍別を遣しし約
 一又慶勝ふ二万の兵馬とて左海關着着能ふ力と合正め
 小山南とを棄一宛列ふ部しむ去れふ宋江海軍あて城を攻
 る計と強し互り。処ふ水軍既久李俊来く云宋江今城西ふ
 引退し我船と漢江裏水南ふ屯せりと宋江の計と事後
 と帳中ふ止め林と初め一処ふ忽ち揮る同り来く。今城中
 の補將密小兵と知。宛列と強く宋江の計と事用と事強
 す。ふ宋用が云陳安接及び死業。ぞ不胆畧あの人やん宛列忠
 ららぬ失わうらん只は機子城と彼ぞしとて宋江と耳決と事時
 ぞ。宋江に恨む。引退と作水軍既久人兵不鮑旭おれ人
 小二子の兵馬と更計と投がらば城を慶勝あ兵と宛列ふ

思むるに城中の軍士多く由と陳安接お救むれば陳隆引死業
 林冲ふ二万の兵馬と死し。南門と出故と逢へし。は時軍士又
 報して云慶勝木縁と均列の城人とお約し。是今兵馬二万と
 引く城外山の辺と攻め。陳隆受て居方。鄭盛ふ二万の兵
 と多し。引く逢へし。む。は時軍士又告らる。軍別
 の城人李三思及び倪信ふ兵馬二万と。西門ふ攻め。とられ人
 大少驚え。只宣慶都文の妻お二万の兵あれば半は老弱の人
 かり。は時軍士といんが。子とて存候して互り。知ふ。是子書生蕭讓
 を。宋江人必は。慈へ。のみ。と。な。れ。宋江の計あり。と。て。陳安接の身
 迎。て。修。修。れ。ば。陳。隆。む。と。は。信。し。り。

○ 書生侯笑し。強敵と退く

蕭讓
謝中
計
之
先
蹤
之
跡
諸
葛
亮
城
人



方爾人許書傳卷之七拾九

陳安按此時宣贊郝思文不又子のききと飲せし西門の思
 依しめ城兵の速くをいしくお出べしと令し又老弱の軍士も旗
 と指しめ城の口方お伏せしめ砲撃の響きと哨号お發せし
 すと令し城の西門の城樓お上り候家陸戰蕭漢
 とはどく。産して軍士として酒饌と進べしめ大城の西門を
 能教賊士解圍回
 不讓當幸諸葛
 聖千大名聞宇宙
 奇籌妙策以誰比

城お事二思便惚ハ十餘人の副將及び三方のきと引連勢お承
 して。諸將おしお城の口方お伏せし三人の友人一人の書生と仰ぐ城
 樓お上り酒と飲は西門の城樓お上りし一本の旗ともえんがしめ事
 三思大お縛つく。吾とをわかんば。便惚も又云城中ゆびはと
 あらん。城お兵と退け彼が銃針おあらしかりと急ぎと
 退んとし。知お忽ち城上一おの他響を城の北を履ひ多の
 銃聲侍お立ちし。城を又お守り候がして自れを城の
 縁て埋伏せし。宣贊郝思文全鼓となりし。吾と仰ぐ切おれ
 ば。城を扱こそ針おあらしとて。城を逃まら。事二思便惚も礼
 軍お殺せし。宣贊郝思文の唯一陣おお獲り。城を切ると一
 百餘人お甲馬道と仰ぐ。事とあは。己お城中お守りし。時先
 軍城の西門の城を二人と付し。城の北を履ひ。退敷し。只懸姓
 とお逃し。凱歌と唱へ城おゆる。南門の弁お。城を切ると一
 と戦ふと。城を殺んと。城の西門の城を切ると一。城を

三思大お縛つく。吾とをわかんば。便惚も又云城中ゆびはと
 あらん。城お兵と退け彼が銃針おあらしかりと急ぎと
 退んとし。知お忽ち城上一おの他響を城の北を履ひ多の
 銃聲侍お立ちし。城を又お守り候がして自れを城の
 縁て埋伏せし。宣贊郝思文全鼓となりし。吾と仰ぐ切おれ
 ば。城を扱こそ針おあらしとて。城を逃まら。事二思便惚も礼
 軍お殺せし。宣贊郝思文の唯一陣おお獲り。城を切ると一
 百餘人お甲馬道と仰ぐ。事とあは。己お城中お守りし。時先
 軍城の西門の城を二人と付し。城の北を履ひ。退敷し。只懸姓
 とお逃し。凱歌と唱へ城おゆる。南門の弁お。城を切ると一
 と戦ふと。城を殺んと。城の西門の城を切ると一。城を

いふぞ終款叶ふべきを滅亡故に付て其時其時
 切敷とて去る二百餘人海を渡る者も數とまらば死の郊野に
 血の流まじく集のどしけ時らねたきと救りけし
 陳漢侯の敵は絶たれし故に蕭後の妙計に依りて功を成し人
 小酒を安と設けしを待て歎待二年と妻ありけり。其後小段二
 府を往と定別ありて後城樓より上りて其軍と至りし八月申
 旬の天来とて一橋の明月白をのどく怒り。其軍の旂旗は
 揺るふの方小段は設二た流おめて黙り守に死別と救る
 め退ふありげや。た後が必すかくのどしと其時とみくお
 づしけ時段二の演復候ありし二方のききと其軍を退
 りしち。其時城樓より上りて其軍と至りし八月申

又月光にお映じ。又百艘の柳船を軍の旂号と建船毎六
 七人の水子のこふのち推し。段二の系より人の物を操るふ別
 性質なり。其多くの柳船とて。勿ら其起り。水軍総長法能
 小令じ又百艘の戦船も其の水多と其城めの水門より揺
 出。柳船と奪いしむ。侍軍兵も其戦船のありて揺る
 一々柳船と奪ふ揺る。彼水も其の岸より揺る。法能の
 戦船とて其ち。其小岸より近付り。其小岸より一々の戦船
 と百艘の漁船と漕出。船より人の刺をばし。三人の團牌標
 旗と持て。其揺る。其法能の士卒も其揺り。其火箭を放
 じし。彼漁船上の人のいふ。其火箭を放る。其周と叫んで水中に
 飛入る。其法能の士卒も其揺る。其柳船も其揺る。其法能の士卒

新編水滸畫傳卷之七拾九

九二

一艘の綿船と奪ひ水軍小舎に第一の中つ小揺入りしあゝ船中を
 改んと軍士小舎に船板と突りしむるあゝんぞ完事をせん一すも動
 ざれば法徳源は橋を奪ひて舟とゆゑお破んとせし処お名も後や彼に
 六百艘の糧船も推し二人揺去りてお自ら知れ風ふ吹くを
 くねく水つの内へをこまへば法徳源大お強き敵の好半お申り
 一とこと知りてお不所お上りんとせし処お名も下の水屋より
 数人の大男潜り出各口申お蓼葉刀と御ふ是軍後二張三張二
 重八人へ法徳源は軍勢とゆゑおんとす侍中後忽ら胡哨と
 吹と一お彼を箱系の内お強き一歩軍兵は船板の下の梢子
 と拔岸上よお上りて是軍軍の猛りけりておんて純旭李達
 頂元魯智深武松楊雄石秀解珍解宝鄆州鄆州白晝時逢

丁得孫石勇凌振阮小二王定六十九人一人のよの兵と死
 敵にお切らるるに船をゆゑお強きと敵船のさき大お放し法徳源と威
 お切殺さるるに後お水つと奪ひて船をゆゑお強きと河内海
 ておと流せりて純旭お二十人の勇将をかと指ひ攻めし度振とて
 裏天地と放ししは侍中申大お強き。版二の要をゆゑお強き
 とお引返しお出せりて船のさきお強きと純旭お出合お強き
 とお引返しお出せりて船のさきお強きと純旭お出合お強き
 打倒し遂お版二と生摺まり侍中申城中の船をゆゑお強き
 とお引返しお出せりて船のさきお強きと純旭お出合お強き
 又城お強き後お城申小お強きと彼をゆゑお強きと
 床にお出合お強き馬お強きと彼をゆゑお強きと

丁得孫石勇凌振阮小二王定六十九人一人のよの兵と死

百の馬も大車の切敷る在州陳安馬も夫の馬ををりて城と
 遊拂ひ城中も切なり宋を之海と帥府を待け又時を宋
 以榜と出して百姓と救善することと榜の日天明をれ
 王定おの殿二と縛て引來れが宋に大おを切と事一軍士よ
 命じ返二と押監し陳安接の命引返しむらわ織軍の云
 年増する者一百餘人救さる者數と知れた後も宋軍を殺
 されり。宋に大お酒宴と設け三軍の将士と賞賜し又李俊
 木の切と事しくある。宋も夫お命じ捷と陳安接お報し織
 軍の消息と事し。宋も夫お馬夫の仲の法となり。半日あも
 ことりお同りまの回復しと云。陳安接大おほびを事し表と事し
 朝廷お褒めはと又蕭德が計と事し。強敵と退くことと事し

く宋も大お紅はほび且事と事し。中おと事し。は計妙と事し
 織軍の事し。是と事し。いんがせん。遂は是者身の之織と事し。宋に
 又陳安の事し。と事し。と事し。百姓と破り。二三日と
 事し。軍勢お小治り。れは軍用と事し。宋に。荆南とお事し。を
 知らぬ。海軍接の使者來り。朝廷の勅状と後と云。西系
 の從軍も。今も宋系の屬縣と記し。と事し。西系とお
 て。後お。王慶が梁元と攻べし。との命お。宋に傳ぐ。飲更し。軍用
 と事し。分て。荆南。西系。二と事し。と事し。及び。軍の始末。次
 美ら。小。明ら。なり。

